

「広がる小中学校教員の連携」

国の学習指導要領は、小・中2冊に分かれていますが、三戸町は一貫校の要領として一冊になっています。



心豊かでたくましい児童生徒を育む小中一貫教育をめざして

シリーズ えでゆれば vol. ②

※1

今月から、新しい学習指導要領による新しい教育が全国の小学校でスタートしました。

三戸町では、全国に先駆けて2年前から新しい教育内容を取り入れた小中一貫教育をスタートさせています。

今回は、教育内容と小中学校の教員の連携についてお知らせします。

三戸町 小中一貫教育要領

三戸町では新しい教育をスタートさせるため、町内小中学校の教員を中心としたメンバーが、平成19年度から2年の歳月をかけて教育内容の検討を行いました。

その成果として国が示した新しい学習内容に加え、三戸町ならではの内容や小中学校9年間で順序立てて指導するための工夫を盛り込んだ「三戸町小中一貫教育要領」が完成しました。

国の学習指導要領は、小学校と中学校で別冊子になっているため、小中学校の教員が、お互いの教育内容について十分に理解しているとはいえない状況でした。

今回の国の改定では、小学校には中学校の、中学校には小学校の教育内容が初めて巻末に掲載されました。国も小中学校の連携を重要視していることがわかります。

三戸町小中一貫教育要領は、教科ごとに1年生～9年生（中学3年生）の教育内容をまとめ

ているため、小中の連携・一貫をより意識できる内容になっています。

青森県教育委員会の学校教育課によると、「県内で小中一貫教育に取り組んでいる市町村の中でも、三戸町は教育内容について特に先進的である」ということです。

英語科（小学校）での連携

教育内容の検討だけではなく、授業についても小中学校の



11月の授業では、英語劇「大きなかぶ」の発表準備のため、アシスタントとして中学校の先生が参加しました。（三戸小）

教員が連携して行っている例を紹介します。

現在、町内全ての小学校の全ての学年で、学級担任とALT（外国語指導助手）によるT・T（チーム・ティーチング）で英語科の授業が行われています。

昨年11月と今年2月には、通常の2名体制に中学校の英語科教員を加えた3名で、小学6年生の授業を行いました。中学校英語科教員は、11月はアシスタントとして小学校スタイル（活動）の授業に参加し、2月には



2月の授業では、ビンゴやカルタなどのゲームを取り入れながら、中学校スタイルの授業を行うことで、子ども達は活動と学習のギャップを感じることなく学ぶことができました。（斗川小）

授業者として、中学校スタイル（授業）の授業を行いました。

実際に授業を行った中学校の教員は、「子どもの様子や力を把握できた」。小学校の教員からは「専門性の高い中学校の教員が指導したことで、楽しく活動するだけでなく、知的好奇心をかき立てる授業になった」と、お互いにその効果を実感しています。

この授業に向けて、小中学校の教員は、何度も議論しました。

「英語に慣れ親しむために、小学校ではこのような工夫をしている」「小学校で習った表現は、中学校のこの部分の学習とつながっている」など、具体的な話し合いを通じて、子どもたちを9年間かけて育てようという意識が高まっています。

また、各校での授業が終わるたびに、子どもの様子を見て感じたことを話し合い、改善案を出し合うことで、充実した授業づくりに活かしました。

このような積み重ねが、小中学校の垣根を低くし、中一ギャップの解消につながるものと期待されます。

小学校では指導していない文字を読む活動を指導する中学校の先生とALT。（杉沢小）



※1 学習指導要領

どんな内容をどの学年で、どのくらい学習するかなどを文部科学省が示した最低基準で、日本全国共通のものです。

これまでほぼ10年に一度のサイクルで見直されてきましたが、約30年ぶりに授業時間の増加や小学校への外国語活動の導入などが盛り込まれました。

※2 T・T（チーム・ティーチング）

2人以上の教職員が連携・協力し、一人ひとりの子どもに応じた学習内容、興味・関心、達成度などに応じて、柔軟な指導を行う教育方法のことです。

三戸町の英語科（小学校）では、学級担任がT1（授業者）、ALTがT2（発音などのアシスタント）として、指導することを指します。